久留米市立大橋小学校 学校だより

おおはし

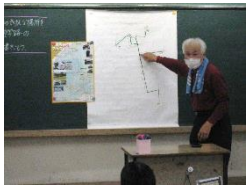
カトレア

令和４年１２月２日

第１５号

文責　野瀬　浩一

防災学習～水害の時に自分で自分の命を守ることができるように～



7月に計画して熱中症予防のため延期していましたが、やっとフィールドワークでの学習を行いました。といっても、当日はあいにくの雨のため、泣く泣く学団毎に教室に分かれ、各区の自治会長様や防災士の方々、コミセンから総勢12名の方に来ていただきました。そして、Googleのストリートビューで通学路をテレビモニターに映しながら、危険な箇所を教えていただきました。

「この道は、泥水で通られんようになった。」「泥水で、道やら水路やら田んぼやら分からんで、あぶない。」「下が見えんし、膝まで水がくると、歩かれん。」など、水害時はどういう状況になるか、体験を基に話をしていただきました。

わざわざ写真を拡大して持って来てくださったり、拡大した地図に貼れるように写真をコピーして持ってきていただいたりしました。また、コミュニティセンターからは、「大橋再発見マップ」を子どもたちに1枚ずついただきました。

自分が住んでいる地域の災害時の状況や防災への思いを知ることができ、地域の防災への熱い思いを感じることができました。

改めて、GTとしてご協力をいただいたみな様にお礼を申し上げます。

一人一鉢～今年もきれいに育ってね。

大橋小の伝統になりつつある『なかよし班での花の苗植え』。栽培委員会が昼休みに用意してくれて、なかよし班で上級生が下級生のお世話をして、パンジー・ビオラ・ノースポールの苗を植えました。３月の卒業式に飾ります。それまで大事に大事に水やり・花がら摘みをお願いしますね。

大橋ふれあい人権・同和教育講演会

～歌と語りにいやされました～

11月21日（月）大橋コミセンとの共催で、武末 龍泰さん（元久留米市内の小学校の校長先生）の人権ミニコンサートを行いました。4～6年生と保護者、地域の方々が1時間ほどの時間、優しい語りと歌声に聴き入りました。

「シャボン玉」という曲は、作者の野口雨情が、長女の死を思っての詩であると言われています。

シャボンだま　とんだ
やねまで　とんで
こわれて　きえた

シャボンだま　きえた
とばずに　きえた
うまれて　すぐに
こわれて　きえた

かぜ　かぜ　ふくな
シャボンだま　とばそ

作者の野口雨情が生きた時代は、1900年台前半、大正から昭和にかけての戦争前夜です。当時の医療は今のように進んでおらず、出産は、大きなリスクがあった時代でした。

第2連の歌詞は、胸が締め付けられるような悲しい歌詞です。また、第3連の「かぜ　かぜ　ふくな」は、「親として小さな命を守りたい、我が子が惨禍にあうことなく、生きてほしい。」という切なる願いが込められていますね。

アンコールでは、2011年の東日本大震災の復興ソング「花は咲く」を歌われました。会場にいる方がみな口ずさみ胸が熱くなりました。命の大切さを考える時間となりました。

ヘルメットかぶっていますか？

毎年のように小学生の自転車での事故の報道がされています。本年4月には、市内の小学4年生が自転車の転倒事故で亡くなっています。自転車での事故の6割が、頭部に致命傷を負っています。また、ヘルメットの非着用の場合、着用時に比べ自転車事故の致死率が約２倍高まると言われています。

道路交通法が改正され、令和５年４月までにすべての自転車利用者にヘルメットの着用が努力義務化されます。この機会に是非、お子さんのヘルメット着用をお願いします。また、自転車保険への加入もご検討ください。